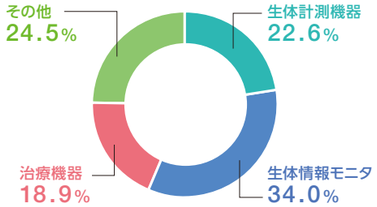
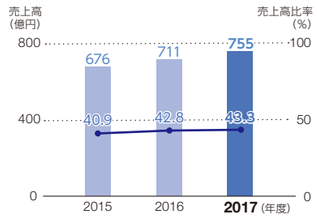
商品戦略

中期経営計画「TRANSFORM 2020」では、「高い顧客価値の創造」による「高収益体質への変革」を目指しています。日本光電のコア技術であるHuman Machine Interfaceを最大限に活用した付加価値の高い医療機器の開発に注力するとともに、安定収益の確保につながる消耗品・保守サービス事業の強化に取り組んでいます。

商品群別売上高構成比
（2017年度）



消耗品・保守サービス売上高の推移

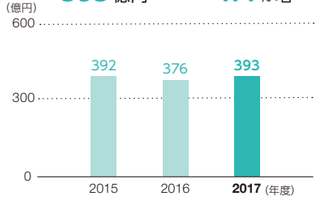


生体計測機器

心電計
ECG-2400シリーズ

日本光電では、コア技術である「センサ技術」を駆使し、身体の発する微弱な情報もキャッチする、優れた“生体計測機器”を提供し続けてきました。主な機器には、脳波計、心電計、筋電図・誘発電位検査装置、心臓カテーテル用検査装置等があります。特に、てんかん、睡眠障害などの診断に欠かせない「脳波計」は、世界で高いシェアを誇っています。

売上高	前年度比
393億円	4.4%増



2017年度の概況

国内
心臓カテーテル検査装置群や診断情報システムが好調に推移したほか、心電計群も堅調に推移しました。脳神経系群は前年度並みを維持しました。

海外
心電計群は好調でしたが、脳神経系群が前年度実績を下回りました。

新商品紹介

2017年度、診療所市場向け商品として、クリニカルアシスタントサービスや医療介護ネットワークシステム、ホルター心電計を発売しました。

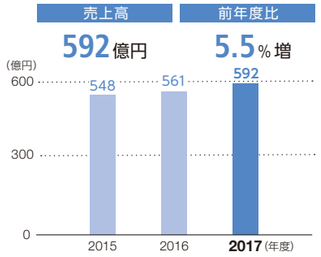
長時間心電図記録器
RAC-5000シリーズ

生体情報モニタ

ベッドサイドモニタ
CSM-1901

心電図、体温、SpO_2（動脈血酸素飽和度）、NIBP（非観血血圧）等、患者さんの生体情報を連続してモニタリングする生体情報モニタは、集中治療（ICU/CCU）や手術室、一般病棟など、様々な医療現場で活用されています。日本光電では、かかりつけ医向けの簡易モニタから病院内の搬送用モニタ、集中モニタリング機能を備えた高度なモニタリングシステムまで、幅広いノウハウをベースに、製品開発を進めています。

売上高	前年度比
592億円	5.5%増



国内
臨床情報システムが好調だったほか、センサ類などの消耗品も堅調に推移しました。

海外
米州、欧州、アジア州で増収となり、特に米国での売上が大幅に伸長しました。一方、その他地域は前年度における大口商談の反動もあり減収となりました。

2017年度、急性期病院向け中位機種ベッドサイドモニタを発売しました。2018年度は、新興国向けのベッドサイドモニタを投入する予定です。

ベッドサイドモニタ CSM-1501

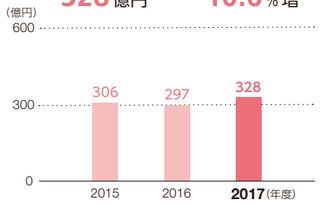
ベッドサイドモニタ CSM-1502

治療機器

自動体外式除細動器
AED-3100

救急蘇生用の除細動器は、心室細動になった心臓に電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための治療機器です。日本光電は、院内や救急現場で使用する除細動器と一般の方が使用できるAEDを開発・製造しています。また、植込み型心臓ペースメーカや人工呼吸器、麻酔器など、世界トップレベルにある海外製品の導入販売にも力を注いでいます。

売上高	前年度比
328億円	10.6%増



国内
AEDが、更新需要の回復による販売台数の増加に加えて消耗品も伸長したことから、好調に推移しました。除細動器や人工呼吸器も好調でした。

海外
除細動器は、全ての州で売上が大きく伸長しました。AEDは米州、欧州で好調に推移しました。

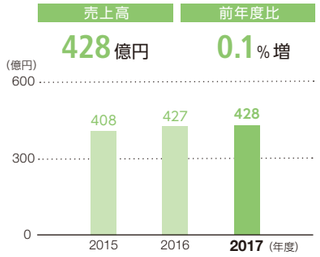
2018年度、当社初の人工呼吸器、麻酔器を投入する予定です。人工呼吸器は集中治療室、麻酔器は手術室で、生体情報モニタと一緒に使用されるため、相乗効果が期待されます。

その他

全自動血球計数器
MEK-9100

検体検査分野では、血液中の血球数を測定する血球計数器と測定に必要な試薬を開発・生産し、測定精度の向上に取り組んできました。糖尿病の診断指標でもあるヘモグロビンA1c（HbA1c）と、C反応性蛋白（CRP）を測定できる臨床化学分析装置も提供しています。また、研究用機器も自社開発し、性能の向上に努めています。

売上高	前年度比
428億円	0.1%増



国内
検体検査装置が低調に推移しました。

海外
血球計数器が中南米、欧州で堅調に推移しました。

2018年6月、診療所市場向けに、当社初の全自動血球計数・免疫反応測定装置を発売しました。

全自動血球計数・
免疫反応測定装置
MEK-1303